

Title	表紙 目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1958
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.51, No.11 (1958. 11)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19581101--001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

三田學會雜誌

慶應義塾経済学会

十一月号

論 説	管理の機構と人間関係……………青沼吉松(一)	経済学史上における最低賃金制論の形成……………黒川俊雄(三)	vaine pature 考……………渡邊國廣(四)	資料	仮説の選択と相関係数……………佐藤保(六)	書評及び紹介 経済学関係文献目録
--------	------------------------	--------------------------------	----------------------------	----	-----------------------	---------------------

第五十一卷

第十一号

昭和三十三年十一月二十四日
 昭和三十三年十一月十三日
 昭和三十三年十一月十四日
 発行(毎月一日、九日、十七日、二十五日)
 第三種郵便物認可

昭和三十三年十一月二十四日
 昭和三十三年十一月十三日
 昭和三十三年十一月十四日
 発行(毎月一日、九日、十七日、二十五日)
 第三種郵便物認可

三田学会雑誌

昭和三十三年十月号

定価 金九〇円 (送料別)

MITA GAKKAI ZASSHI

(Mita Journal of Economics)

Vol. 51, No. 10

October, 1958

CONTENTS

On the Agrar-policy of <i>Toshiaki Honda</i> (continued)	Page
..... <i>T. Shimazaki</i> (1)	(1)
Critical Remarks on Mr. Kaldor's Growth Model	
..... <i>I. Okuma</i> (17)	(17)
The Effects and Limitations of Nationalization.	
As Observed under the British Labour Government of 1945~51	
..... <i>M. Maruo</i> (27)	(27)
Two Forms of Socialistic Ownership and the Law of Value	
..... <i>A. Hirano</i> (41)	(41)
Quesnay's Tableau Economique and Marx.	
Concerning mainly the Work of Prof. S. Koshimura	
..... <i>T. Watanabe</i> (56)	(56)
Reviews and Notes	

Published for
KEIO-GIJUKU KEIZAI GAKKAI
 (The Keio Economic Society)
 Editorial communications to be sent to
 the Editor, Keio-Gijuku Keizai Gakkai,
 Keio-Gijuku University,
 Mita, Minato-ku, Tokyo, Japan.
 Price 90 yen.

書評及び紹介

- 田中惣五郎著『吉野作造——日本的デモクラシーの使徒——』……………飯田 鼎(六七)
- W. Kalweit 著『現代資本主義における物価騰貴の諸原因について』……………北原 勇(七一)
- 飯田鼎著、『イギリス労働運動の生成』(有斐閣)によせて……………小川 喜一(七八)

管理の機構と人間関係

青 沼 吉 松

はしがき

「二〇世紀は組織の時代である」といわれる。「個人が単独で、周囲の人々の助けをかりずに、大事業をなしとげる時代は急速にすぎつつある。すべての大事業は協働によってなされる時代が到来しつつある」とは、今世紀のはじめに、テーラーがいった言葉である。

管理(administration)との関連においては、公式組織(formal organization)が取り上げられる。バーナードによると、公式組織は物的・生物的・個人的・社会的諸要素から構成されている複合体たる協働体系(cooperative system)からの抽象であり、協働の社会的体系と定義される。その内容をなしているのは、各種の協働体系に共通な中核的要素である。具体的な協働体系の個別性は捨象されているから、彼の組織理論は企業経営のみならず、あらゆる人間組織に通用する一般論的性格をもっている。彼の公式組織の概念は、要約すると、「調整された人間努力の非人格的体系」(E. J.

personal system of coordinated human efforts)である。

集団は人々の相互関係の体系であり、そこでは、人々が強調されている。ところが、組織では、相互関係の体系が問題となる。従って組織は実体たる人々を捨象した、非人格的なそれ自体としては、無形の関係である。このように、組織を定義することによって、様々な分野での経験を共通な言葉に翻訳し、組織についての一般原則を樹立することが可能となる。非人格化された組織は、組織図や職務明細書などによって、明示される。

協働には、非人格的・機構的(Behatted)側面と人間的側面とがある。細分化された諸機能が幾多の職位に分けられ、これらの職位の関係が照明されている時には、公式組織が、即ち協働の機構が問題となっている。諸機能の担当者として、個々人が現われてくる。その人間的側面が問題となる。職位をそこに位置している個人から完全に切り離すのは不可能であるから、協働においては、機構と人間とが共に取り上げられなくてはならない。現実には、両者は